

第2回ワークショップ（パネルディスカッションで出された意見概要）

- テーマ：「市民が望む自転車利用環境」
- コーディネーター：吉田 長裕さん（大阪市立大学 准教授）
- パネリスト（順不同）：
ハイス・ヴァン・スカイクさん（オランダ王国総領事館 副領事）
川口 加奈さん（NPO 法人 Homedoor 理事長）
中原 美智子さん（株式会社ふたごじてんしゃ 代表取締役）
TEAM ちゃりん娘さん（大阪府警広報啓発ユニット）
杉谷 紗香さん（季刊紙「cycle」 編集長）

【自転車を「とめる」環境に関して】

オランダ（ユトレヒト）では、駅近くに大きな駐輪場が整備されている。ラック式の駐輪施設だけでなく、広い駐輪スペースにより、多様な自転車にも対応できている。また、シェアサイクルやサイクルステーションを含め、様々な利用サービスが展開されている。

駅周辺や観光・商業施設の周りでは、駐輪場があっても不足していることが多く、また自転車の多様化も進んできており、量と質の充実が望まれている。

【自転車で「はしる」環境に関して】

近年、自転車レーンの整備が進んできており、スポーツ自転車の愛好者からは、安全性の向上を喜ぶ意見も多い。しかし、大型車の走行や路上駐車などにより、レーンを走ることには怖い思いをしている人もいる。道路を歩行者と自転車、自動車に分け、全体として共有し、それぞれが安全で安心できる道路空間の確保が望まれている。

また、スポーツやピクニックなどを利用目的とした自転車道については、長距離を走るニーズも想定して広域的なネットワークを考えていく必要がある。

今、御堂筋では、歩道を拡幅して、歩行者、自転車、自動車の3者を分離した空間整備が進められている。このような街のメインストリートから情報発信していくことも大切である。

【そのほか、自転車の利用環境全体に関して】

大阪では、外国人観光客が増えてきており、移動自体がアクティビティな自転車は魅力的で、コミュニティサイクルに対するニーズも高い。また、観光客などに人気の大阪城公園に自転車入れないなどの課題があり、公園内の自転車利用に関する規制緩和が望まれている。

また、自転車マップなどによる情報発信も重要であり、自転車ルート（おすすめコースや危険箇所など）に加え、観光スポットやグルメ情報などが盛り込まれることで、より使い勝手の良いものとなるだけでなく、街の魅力発信にも繋がっていく。

さらに、自転車は膝の負担も少なく、身体に大きな負荷がかかることもないので、無理なく運動することができる。習慣的に自転車に乗り続けることによって、効果的に脂肪を燃焼させ、筋肉を鍛えることもでき、より健康的な身体を手に入れることができる。